



日本仏教看護・ビハーラ学会第20回年次大会によせて

ご挨拶

2024年1月1日、能登半島地震において心と身体に大きなダメージを負われたすべての方々に心からのお見舞いを申し上げます。

本年6月22日(土)、23日(日)の両日、京都の龍谷大学において鍋島直樹大会長のもと、第20回の年次大会が開催されます。

「ビハーラの原点に返って未来へ～願われないのちを共に」というテーマの通り、初日には鍋島大会長よりビハーラ運動についての総括がなされます。そして、当学会を世に送り出したお二人、田宮 仁(まさし)先生と、藤腹明子先生から、今日までのビハーラの軌跡が語られます。

前回の新潟大会から、夜のラートリカサンガがはなばなく復活しております。今年も実行委員のみなさまによって念入りの準備が行われていると伝え聞いております。20周年を祝う懇親会とともに楽しみにしております。

二日目には、会員のみなさまの研究発表の後、午後のシンポジウムにおいて、「仏教看護の今、そしてこれから～すべての人の利益(りやく)を願って」と題して、台湾、米国(ベトナム、タイ)、日本における仏教看護の実践、教育、研究の今についてご発表頂き、今後の発展普及、継承のために必要な事柄について当事者である看護研究者のみなさまと存分に討議頂きます。田宮仁先生によって世界に投げかけられたビハーラ運動が台湾の地で、日本でどう結実しているのか。そして米国のホン・グエン先生の提唱する仏教看護の実践と教育について知り、日本における仏教看護の発展と定着に必要な事柄についてともに考えましょう。

大会長および実行委員のみなさまのご尽力により、龍谷大学内で行われている特別展「金子みすゞ いのちへのまなざし」を、年次大会の閉会まで会期を延長して頂いたとのことです。年次大会にご参加して頂いた方々には、無料で入場可能とのこと。

二日目の朝には、西本願寺御影堂・阿弥陀堂において朝のお勤め「お晨朝(じんじょう)」への参加も可能とのこと。

20周年を記念いたしまして、当学会員の田久保園子さん(文)と若麻績敏隆さん(パステル画)による画文集、「自然法爾～赤い風船～」を現在制作中です。やがては必ず失われるいのちと向きあっているすべての方の、光となり安らぎとなる素晴らしい作品です。大会二日目の午後、完成報告会と朗読会を行います。会員のみなさまへは、当日手渡しで、一冊ずつプレゼントさせていただきます。(学会当日より、どなたでも購入可能です。)

あと、もうひとつ。

第20回大会にむけて、心と頭の準備を整えるためのプレ・イベントを計画しています。

スリランカ、パーリ佛教大学のオマルペ・ソマナンダ先生による、オンライン講演会「ゴータマ・シッダルタの考える仏教看護(仮題)」です。お釈迦様が語った言葉に最も近いパーリ語の仏典では、病める人へのケアを、看護をどのように考えていたのでしょうか。

詳細が決定し次第、学会ホームページおよび会員メーリングリストにてお知らせします。プレ・イベント、本大会ともにオンライン参加も可能です。

会員以外の方でも、どなたでも参加できます。

この節目の年に、当学会としては一年を通じて仏教看護について学び、継承していくための取り組みを行う所存です。本大会は、まさにはじめの一歩となります。みなさま、どうぞお誘いあわせの上、初夏の京都へおいで下さい！

日本仏教看護・ビハーラ学会
会長 今井 洋介

日本仏教看護・ビハラー学会 第 20 回 年次大会

日 程 令和 6(2024)年 6 月 22 日(土)11 時 00 分～6 月 23 日(日)15 時 40 分まで

会 場 龍谷大学大宮学舎(〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1)

問合せ先 日本看護仏教・ビハラー学会第 20 回年次大会実行委員会事務局

龍谷大学大宮学舎森田敬史研究室内

E-mail: vihara2024@gmail.com

龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門(白亜館)

TEL:075-343-3812 mail:rcwbc.app@gmail.com



ビハラーの原点に返って未来へ

願われないのちを共に

鍋島 直樹

龍谷大学文学部教授 博士(文学)

令和六年能登半島地震でお亡くなりになった方々に、哀悼の誠をささげます。
被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

日本仏教看護・ビハラー学会第 20 回年次大会を 2024 年に龍谷大学で開催するにあたり、ビハラーを大切に思うすべてのひとを心から歓迎いたします。大会テーマとして「ビハラーの原点に返って未来へ—願われないのちを共に」を掲げました。なぜなら田宮仁の提唱したビハラーの原点と四つの構想を尊重して、多様なビハラー活動すべてを応援したいからです。

一 ビハラーの提唱とその原点

1980 年代、日本で、人が亡くなった後だけでなく、死の前で孤立している人々の心を支えるような仏教として復興したいという願いが、仏教徒のなかからわきおこった。1985 年、田宮仁は、キリスト教のホスピス・ケアに学び、「仏教を背景としたターミナルケア(終末期医療)施設」の呼称として「ビハラー」を提唱した¹。

田宮仁は、1986 年 1 月 1 日、「ビハラー仏教を背景としたビハラー(Vihāra)の開設を願って」の論文で、ビハラーの原意と構想を発表した。

ビハラーの原意は何か。

ビハラー Vihāra……散歩して気晴らしをすること。休養の場所。仏教徒の僧院または寺院。²

中村元の「ビハラー活動の源流」によると³、

「ヴィハラー vihāra」とは、インド一般では「くつろぐこと」あるいは「くつろいでとどまること」を意味する
場合が多い。

と説明されている。実際に、仏教の「精舎・僧院」には「病舎」があり、「祇園精舎」は梵語では Jetavana-vihāra と呼ばれる。

二 四天王寺の四箇院の理念—『四天王寺縁起』(1007 年成立)

日本の医療福祉施設の起源は、四天王寺の四箇院であるとされる。『四天王寺縁起』によれば、聖徳太子が四天王寺の建設に際し、「四箇院の制」を定めたと伝える。四箇院は、敬田院、施薬院、療病院、悲田院をさす。

敬田院は、一切衆生が帰依し、惑いを断って善を修し、最上のさとりにいたる寺院である。施薬院は、薬草等を育てて合わせて薬を作り、あまねく施与する施設である。療病院は、すべての病人を迎え入れる病院であり、先生や両親のように病人を養育する。悲田院は、貧しい人、障がい者、孤児や身寄りのない人を援助する社会福祉施設であり、体力が回復すれば四箇院の仕事に就く⁴。四箇院の理念は、四天王寺病院、あそかビハラー病院などの仏教系の病院や社会福祉施設では、ビハラー施設の原型として尊重されている。

ただし、注意すべき点がある。すでに先行研究によって、『四天王寺縁起』の成立年代は、寛弘四年(1007)であり、四天王寺の僧侶が、聖徳太子の名を借りて作成したことが解明された⁵。それでも四箇院の理念、老病

死に悩む人々や生活に困窮する人々を先生や両親のように尊重し、仏が衆生を憐れむのように、誰に対しても平等に慈しむ姿勢は、ビハーラの理念に通じる。

四箇院の敬田院、施薬院、療病院、悲田院は独立型ではなく相互連携型であり、医療福祉施設と寺院で世代を超えて支え合う。循環型支援がビハーラ活動を継続させる力となっている。

三 ビハーラ活動の四つの柱

先行研究におけるビハーラの定義の整理

1 田宮仁によるビハーラの四つの構想

実は、田宮仁は、ビハーラの呼称を「仏教を背景とした終末期医療施設」に限定していない。田宮は、ビハーラの具体的構想について、次の四つの柱を掲げているからである。

- (1) 臨床の場としての「ビハーラ」の開設
- (2) その「ビハーラ」におけるビハーラ・ケア論の開拓について
- (3) 「ビハーラ」のスタッフ養成、及びそのシステム作り
- (4) ソーシャル・アクションとしての「ビハーラ運動」の展開⁶

2 谷山洋三におけるビハーラの定義

先行研究に、2005年、谷山洋三「ビハーラとは何か？ 応用仏教学の視点から」の成果がある。その成果によると、ビハーラを、狭義、広義、最広義にわけて定義している⁷。

狭義……仏教を基盤とした終末期医療およびその施設

広義……老病死を対象とした医療および社会福祉領域での仏教者による活動及びその施設

最広義……災害援助、青少年育成、文化事業など「いのち」を支える、また「いのち」について思索の機会を提供する仏教者を主体とした社会活動

四 ビハーラ活動分類と新しいビハーラ活動の動向

打本弘祐は2020年、「ビハーラの現在」という論文で、ビハーラ活動分類として、「超宗派型ビハーラ」・「中間型ビハーラ」・「教団主導型ビハーラ」を提示し、特に本願寺派ビハーラ活動の人材育成と研究動向を意義づけている。

また、打本弘祐はビハーラ活動の新しい動向に注目した。

もう一つの新しい動きに、ビハーラ彦根による子ども食堂や、大阪府柏原市の子育て支援事業として本願寺派の安明寺ビハーラの家開設されている「ドレミファごんちゃん」を例とした公的機関と連携した子ども支援が挙げられる。これらは医療福祉などの施設内でのビハーラ活動から、昨今の子どもの貧困問題や育児の問題に対応し、寺院の公共的機能を発揮して地域の子どもやその親への支援を目的とした新たなビハーラ活動の動向として捉えられる。⁸

このようにビハーラ活動は子どもから高齢者まで、幅広い領域において活動が展開し、地域社会に認められるものとなっている。

五 浄土真宗本願寺派ビハーラ活動の理念と実践

浄土真宗本願寺派社会部では、田宮仁のビハーラ提唱を大切に受けとり、1986年にビハーラ活動研究会を発足し、1987年、ビハーラ活動者養成研修を始めた。

浄土真宗本願寺派『ビハーラ活動の理念と方向性』は、抜粋すると次の通りである。

ビハーラ活動の理念

「ビハーラ活動」とは、仏教徒が、仏教・医療・福祉のチームワークによって、支援を求めている人々を孤独のなかに置き去りにしないように、その心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとする活動です。そして私たち自身が、苦しみや悲しみを縁として、自らの人生の意味をふりかえり、死を超えた心のつながりを育んでいくことを願いとしています。すなわち、「ビハーラ活動」とは、「生・老・病・死」の苦しみや悲しみを抱えた人々を全人的に支援するケアであり、「願われたいのち」の尊さに気づかされた人たちが集う共同体を意味します。

仏教においては、一人ひとりかけがえのない大切な仏の子であり、一つひとつの存在が無限の意味と尊厳さをもって輝いていると教えています。私たちは、このみ仏の智慧と慈悲にいだかれて、さまざまな執

着や偏見をとりはらい、相手の幸せを本当に願い、相手の痛みをともに痛んでいくという心をもって、いのちの諸問題に伝えていきます。

患者だけでなく、子ども、高齢者、障がい者、自殺念慮者と自死遺族、被災者などの悲嘆に心寄せるのがビハーラ活動である。

六 森田敬史におけるビハーラ僧の実際

森田敬史の論文「ビハーラ僧の実際」では、緩和ケアにおけるビハーラ僧の役割について、田宮仁が提唱した仏教者屑籠論に基づき、考察する。

森田敬史はこう明かしている⁹。

クズカゴは部屋の片隅にあるもので、部屋の真ん中に置かれることは少ない。(中略)その存在を主張することなく心の蟠り、もやもや感、悩みに至るまで諸々の感情を吐き出してもらいやすい立場をとるということである。ここで特に都合が良いのは、屑籠が必要時に自分の傍に来てくれることではないかと思う。本論は、病院におけるビハーラ僧の役割が Moving wastebasket(動く屑籠)のように、患者の悲嘆や思いをそっと受けとめることであると解明している。

長岡西病院緩和ケアビハーラ病棟では、仏堂という場があることによって、患者と家族の悲しみや怒り、疲労感、孤独感が和らげられている。特に病院内の仏堂は敷居が高くなく「ふらっと立ち寄る感覚」を大切にされている。病院内の仏堂では、仏に見守られている安心の中で、その人の人生の物語に宗教的な意味が付加される。

七 ビハーラ活動の臨床一寄り添い、学びあう

看護師で僧侶の東承子は、患者との関係についてこう記している。

大切にしていることは、どんなに辛く苦しい人生であっても、人生最後に私が私であって良かった、生まれてきて良かったと思える瞬間があれば、と願いながら患者さんと共に過ごさせていただくことです。¹⁰

患者が、私が私であって良かったと思える瞬間があるようにと願いながら寄り添う。そこに心の底から感じられるぬくもりがある。

花岡尚樹ビハーラ僧は、病院にいる僧侶の意味をこう明かしている。

大切なことは、僧侶も死の前には無力な存在であり、自らも教えを聞かせていただいている立場であることを忘れてはなりません。患者さんも、そしてこの私も、共に阿弥陀さまから願われている存在であること。その御同朋の精神こそがビハーラ活動の特徴であり、阿弥陀さまという縦軸との関係をもたせていただくことが、僧侶の大切な意味です。¹¹

では、医療チームに僧侶が存在すると、どのような効果があるのだろうか。

医療スタッフはどうしても患者さんの語りを客観的に捉え評価しますが、僧侶は患者さんの語りに評価を加えずに聴くことに徹します。評価されると本音が話しくくなりますが、評価せずに聴くことによって、患者さんが抱えている率直な思いに耳を傾けます。そういった情報をカンファレンスにもちより、疾患の部分だけでなく、患者さんの人生を全人的に捉えられるように情報を共有していきます。¹²

患者は医療スタッフに心配をかけたくなくて言えない本音を、僧侶に話せる。僧侶は評価をせずに聞いてくれるからである。

まとめ

ビハーラとは、「くつろいでとどまること」「休養の場所・気晴らしをすること」「精舎・僧院」「身心の安らぎ」を原意とする。祇園精舎の無常院を淵源とし、1985年、田宮仁は「仏教を背景とした終末期医療施設」としてビハーラを提唱した。

ビハーラ活動は四つの柱、すなわち、医療福祉施設、養成教育、融合的研究、自由な仏教実践が支え合って展開している。

ビハーラとは、願われないのちの尊さに気づかされた人たちが集う共同体である。ビハーラの原点にたちかえりながら、世界の幅広い領域におけるビハーラ活動をすべて尊重しあえば、大悲にいだかれて、自他共にいのちを守り育むビハーラ活動が未来につづくにちがいない。



図 鍋島直樹『親鸞の死生観とビハラー活動の理念と実際の融合的な研究』下巻 375 頁

- 1 田宮仁『「ビハラー」の提唱と展開』4 頁、淑徳大学総合福祉学部研究叢書 25、2007 年
- 2 田宮仁「仏教を背景としたホスピスビハラー(Vihāra)の開設を願って」56 頁、『ライフサイエンス』13 巻 1 号、通巻 209 号、1986 年
- 3 中村元「ビハラー活動の源流」1～2 頁、『ビハラー活動 仏教と医療と福祉のチームワーク』、本願寺出版社、1993 年
- 4 出口正之「聖徳太子と福祉の伝統」、国立民族学博物館、2016 年 10 月 20 日
- 5 榊原史子『『四天王寺縁起』の研究』2 頁、勉誠出版、2013 年
- 6 田宮仁『「ビハラー」の提唱と展開』8～18 頁、学文社、2007 年
- 7 谷山洋三「ビハラーとは何か？応用仏教学の視点から」、『パーリ学仏教文化学』19 号、39～40 頁、2005 年
- 8 打本弘祐「ビハラーの現在」250 頁、『真宗学』141・142 合併号、2020 年
- 9 森田敬史「ビハラー僧の実際」27 頁、『人間福祉学研究』3 巻 1 号、2010 年
- 10 東承子「僧籍をもつ看護師として」40 頁、『お坊さんのいる病院 あそかビハラー病院の緩和ケア』、自照社、2017 年
- 11 花岡尚樹「<生>と<死>を繋ぐ懸け橋に」、前掲書 68～71 頁
- 12 花岡尚樹、前掲書 46 頁

大会プログラム日本仏教看護・ビハーラ学会 第20回年次大会
全体テーマ「ビハーラの原点に返って未来へ～願われないのちを共に～」

主催：日本仏教看護・ビハーラ学会年次大会実行委員会
共催：龍谷大学 世界仏教文化研究センター

イベント：オンライン予定

「ゴータマ・シッダルタの考える仏教看護(仮)」 オマルパ・ソマナンダ師 (スリランカ パーリ佛教大学)

6月22日(土)大会 1 日目

午前11時～23日閉会まで

エクスカーション1 特別展「みんなちがって、みんないい。童謡詩人金子みすゞ いのちのまなざし」

龍谷大学大宮学舎本館1階 予約不要 入館料無料

13:00

開場 受付 龍谷大学大宮学舎東翼1階ロビー

13:30～14:00 東翼101

開会式 挨拶

今井 洋介 氏 (長岡西病院 ビハーラ病棟長)

大会長講演 「ビハーラの原点に返って未来へ～願われないのちを共に～」

演者：鍋島 直樹 氏(龍谷大学文学部 教授)

14:00～14:40 東翼101

講師紹介 郷堀 ヨゼフ 氏(淑徳大学大学院 教授)

特別講演 田宮 仁 氏

14:40～15:00 休憩

15:00～16:00 対談 東翼101

対談 田宮 仁 氏 × 藤腹 明子 氏(ファシリテーター：郷堀 ヨゼフ)

16:00～16:15 会場設営・休憩

16:15～17:00 総会 東翼101

懇親会(龍谷大学清和館)

受付 17:30

開宴 18:00～20:00

20:30～

ラートリカサンガ(龍谷大学清和館)

6月23日(日)大会 2日目

6:00~6:45

エクスカーション2 晨朝のおつとめ 西本願寺御影堂・阿弥陀堂

9:00 東覺3階 302

開場 受付

9:30~12:00 東覺3階 301

研究発表 発表 15分 討論 10分

12:00~13:00 昼食休憩

13:00~13:30 東覺 101 [20周年記念事業]

『自然法爾～赤い風船～』画文集完成発表会と朗読(朗読者:上藤 美紀代 氏:元静岡放送アナウンサー)

田久保 園子 氏 × 若麻績 敏隆 氏

13:40~15:30 シンポジウム 東覺 101

テーマ「仏教看護の今、そしてこれから～全ての人の利益(りやく)を願って」

(発題者紹介 森田 敬史/進行:今井 洋介・郷堀 ヨゼフ)

発表① 台湾 王 淑貞 氏(花蓮慈濟醫院護理部(花蓮慈濟醫院看護部)副主任)

テーマ:『佛教と看護』における精神理念と実践

発表② 米国 ホン・グエン 氏 (ミネソタ大学)

発表③ 日本 吉田 厚子 氏(訪問看護ステーションさつとさんが願生寺)

指定発言(質問) 伊藤 奈津子 氏 (淑徳大学)

高瀬 園子 氏 (弘前医療福祉大学)

中島 小乃美 氏 (佛教大学)

15:40(予定) 閉会式

会場の案内



龍谷大学大宮学舎（〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1）

交通アクセス

JR東海道本線・近鉄京都線・京都市営地下鉄烏丸線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分（市バス約3分）

JR山陰本線（嵯峨野線）「梅小路京都西」駅下車、北東へ徒歩約10分

京阪本線「七条」駅下車、西へ徒歩約20分

阪急京都本線「大宮」駅下車、南へ徒歩約20分（市バス約5分）

最寄りのバス停：市バス 七条大宮・京都水族館前

[大宮キャンパス キャンパスマップ](#) | [龍谷大学 You, Unlimited \(ryukoku.ac.jp\)](#)



研究発表の申し込み

研究発表演題募集要項 募集 口演発表(5題程度)

発表日 大会2日目 6月23日(日) 9:30~12:00

1)発表資格

- ① 発表される方は、共同研究者も含めて「日本仏教看護・ビハーラ学会」の個人会員、学生会員、団体・法人会員のいずれかであること(発表申し込み時に、入会申し込みの手続きがあれば可能です)
- ② 発表される方は、Microsoft Word に対応した形式(.docx / .doc / .rtf)で作成・保存した文書を、大会事務局の E メールアドレス(vihara2024@gmail.com)に添付書類として、所定日までに提出され、発表採否審査委員会において採択された会員。

2)発表演題(口演)と抄録原稿の提出

- ① 口演発表は、大会2日目6月23日(日)9:30~12:00の間を予定しています。1演題につき、15分間の発表、10分間の討論、計25分間を予定しています。なお、演題数に応じて時間や発表形式(ポスター)を変更する場合がありますので、予めご了承ください。
- ② PC、プロジェクター(Windows11 Pro: Microsoft® PowerPoint® 2019)を用意する予定です。
- ③ 当日配付資料がある場合には、事前に100部程度を用意してください。当日のコピーには対応できません。
- ④ 発表申し込みにあたっては、演題名・所属・氏名と発表要旨の全てを40字×40行のA4用紙1枚以内にまとめた抄録原稿と、対面・オンラインの発表形式、PCプロジェクター使用の有無、連絡先住所等を明記して、大会事務局宛て(E-mail:vihara2024@gmail.com)に提出してください。
- ⑤ 抄録原稿は、原則として、目的・方法・結果・結語の順でお書きください。
- ⑥ オンラインでの発表の場合は、配布資料をPDFにして大会前日の6月21日(金)16:00までに大会事務局宛て(E-mail:vihara2024@gmail.com)にお送りください。
 - ・ 発表や抄録原稿作成においては、個人やその家族等のプライバシーの保護に留意し、個人やその家族等が特定されないよう十分な倫理的配慮をお願いします。

3)申し込み締め切り 令和6(2024)年4月19日(金)16:00必着

4)申し込み先

日本仏教看護・ビハーラ学会 第20回年次大会実行委員会事務局
【Eメール】vihara2024@gmail.com

件名に【日本仏教看護・ビハーラ学会 演題申し込み(お名前)】と明記してください。

5)発表の採否とプログラム・予稿集への掲載

- ① 発表の内容が本学会の趣旨にそぐわない場合には、発表をご遠慮いただく場合があります。採否については、発表採否審査委員会(大会実行委員会、倫理委員会、編集委員会の代表)によって構成される会議において決定いたします。採択結果は5月下旬までにお知らせいたします。
- ② 発表演題が採択された場合には、申し込みの際に提出された抄録原稿を、原則そのまま『日本仏教看護・ビハーラ学会第20回年次大会プログラム・予稿集』に掲載いたします。誤字・脱字がないよう十分にご確認ください。

大会参加の申し込み方法

【大会の参加方法と参加費】

1) 参加方法

- ・ 大会の参加方法は、対面とオンラインです。
- ・ エクスカーションへの参加人数の制限はありません。

2) 大会参加費

正会員・支援会員	対面	6,000 円	オンライン	4,000 円
非会員	対面	7,000 円	オンライン	5,000 円
学生会員	対面	3,000 円	オンライン	2,000 円
学生非会員	対面	3,500 円	オンライン	2,500 円

・学生の方は、受付時に学生証の提示をお願いいたします。なお、大学院生は学生に含みません。

3) エクスカーション

〈エクスカーション1〉 6月22日(土)午前11時から23日閉会まで
特別展「みんなちがって、みんないい。童謡詩人金子みすゞ いのちのまなざし」
龍谷大学大宮学舎本館1階 予約不要 入館無料

〈エクスカーション2〉 6月23日(日)6:00 から 6:45 まで
晨朝のおつとめ 西本願寺御影堂・阿弥陀堂

4) 懇親会 6月22日(土)18:00~20:00

清和館(龍谷大学大宮学舎内)

正会員・支援会員・非会員 5,000 円(税込)

学生会員・学生非会員 1,000 円(税込)

5) ラートリカサンガ 6月22日(土)20:30~清和館

懇親会后、昨年度に続いて懇親会会場でラートリカサンガを開催します。「ラートリカサンガ」とは、「夜を徹し、みなが自由に意見を述べることができる共同体」を意味しています。様々な職種、世代、立場を超えて参加者が集う「語らいの場」です。各自の体力に応じて自由に出入りできます。テーマについて語らうもよし、これまでの講演やシンポジウムに関して議論するもよしです。いのちが生気を失いかけている今、大いに対話しようではありませんか！

参加費:カンパ歓迎(学生は無料)

6) 昼食

6月23日(日)のみ、お弁当の予約を受け付けます。代金は、1,100 円(お茶付き)です。周辺に食事をとれる施設はあまりございませんので、事前の準備をお勧めします。

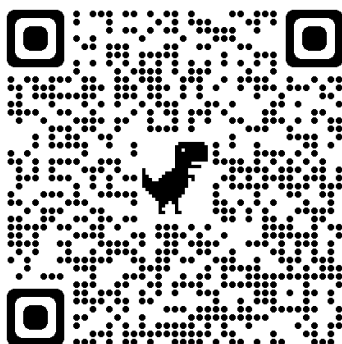
7) 宿泊

宿泊は各自で手配をお願いします。

【申し込み方法】

- 1) 年次大会の参加申し込みは、Google フォームで事前登録した上で、郵便振替口座への振り込み、または Peatixでの決済をお願いします。
- ・ 参加を希望する場合は、下記の URL、QR コードから Google フォームにて必ず申し込みをお願いします。

QRコード ↓



URL:<https://forms.gle/o3tHCAMNzNjKxUu86>

- ・ 会員の皆様には、本ニューズレターに大会参加申し込み専用の郵便振替用紙(青:払込取扱票)を同封しています。通信欄の参加希望される事項について、「○印」をご記入の上、必要経費とともに申し込み下さい。(振り込み手数料は各自ご負担ください。) Peatixでの決済もご利用いただけます。
- ・ 郵便振替口座への振り込み、または Peatixでの決済をもって、申し込み完了となります。
- ・ 郵便振替用紙を使わずに振込をされる場合は、以下の口座に振り込んでください。

<ゆうちょ銀行からの振り込みの場合>

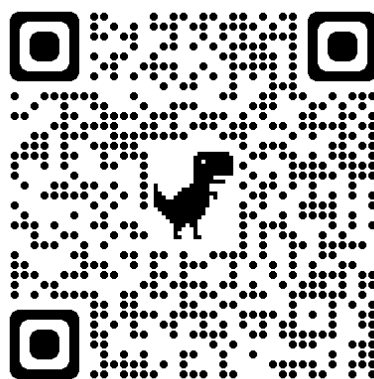
記号番号 00980 - 4 - 196310
口座名 日本仏教看護・ビハーラ学会大会実行委員会

<ゆうちょ銀行以外からの振り込みの場合>

銀行名 ゆうちょ銀行
支店名 ○九九店(ゼロキユウキユウ店):(店番099)
預金種目 当座
口座番号 0196310

※(年会費の振込口座とは異なりますので、ご注意ください。)

PeatixのQRコード ↓



URL:<https://peatix.com/event/3866465>

- ・ 決済された大会参加費・懇親会費・弁当代は、ご自身の都合によるキャンセル及び変更等による返金はできませんので、あらかじめご了承ください。

2) 参加申込(振り込み)締め切り

対面参加 令和6(2024)年5月24日(金)
オンライン参加 令和6(2024)年6月10日(月)

- ・ 上記の期日までに、郵便振替口座への振り込み、または Peatixでの決済をお願いいたします。それ以降は、申し込みを受け付けません。
- ・ どうしてもGoogle フォームにて参加の申し込みが難しいという方は、大会事務局宛て (E-mail: vihara2024@gmail.com) にご連絡ください。
- ・ オンラインサイトの URL は、参加申し込み、振り込みを完了した方に、大会前日までにメールでお知らせします。
- ・ 学会当日に発熱や咳などの体調不良がある方は、対面でのご参加はご遠慮ください。対面からオンラインに切り替えることができますので、ご希望の方は事務局までメールでご連絡ください。ただし、差額は返金できませんので予めご了承ください。対面でのご参加の方は、感染防止対策にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

日本仏教看護・ビハーラ学会 第20回 年次大会 実行委員

大会長: 鍋島直樹(龍谷大学)
事務局長: 森田敬史(龍谷大学)
事務局: 中原登世子(浄土真宗本願寺派 明善寺)
吉田厚子(訪問看護ステーションさっとさんが願生寺)
会 計: 宇佐美智瑞(龍谷大学)
金尾正映(龍谷大学)

実行委員: 打本弘祐(龍谷大学)
大河内大博(浄土宗 願生寺)
釋 大智(龍谷大学世界仏教文化研究センター)
西村慶哉(龍谷大学世界仏教文化研究センター)
花岡尚樹(あそかビハーラ病院)

事務局だより

- 本学会では、新規会員の方をお待ちしています。会員におかれましては、お知り合いに本学会の存在をお知らせいただき、入会をお誘いいたしますようお願いいたします。
- 会員の方へ
2024 年度に入り次第、令和 6(2024)年度 郵便振替用紙(払込取扱票)を発送いたしますので、「年会費」のお振込をお願いいたします。なお、2 年に渡って年会費が振り込まれていない方につきましては、会員の資格を失いますので、ご注意ください。
令和 5(2023)年度年会費未納の方には、別途ご案内させていただいておりますので、ご協力お願いいたします。
- やむを得ず本学会から退会をご希望の方は、E-mail、または葉書にて、本部事務局までご連絡ください。特に書式はございません。
- 住所・勤務先・職位などに変更のある方、学生会員で個人会員への移行の方は、お名前・会員番号を明記の上、E-mail、または葉書にて、本部事務局宛にご連絡ください。

会員著作紹介について

本会の学会誌「仏教看護・ビハーラ」に紹介する「会員著作」を募集いたします。
2022～2024 年に出版された著作がある会員の方は、是非、学会事務局までご一報ください。
どうぞよろしくお願いいたします。

【入会・退会の連絡先・お問い合わせ先】

日本仏教看護・ビハーラ学会 事務局 E-mail: vihara.office@gmail.com

日本仏教看護・ビハラー学会 令和4年度～7年度 理事・役員名簿

会長：今井 洋介（新潟県立がんセンター）

理事：谷山 洋三（東北大学） ※学会誌編集担当/編集委員会
若麻績 敏隆（善光寺白蓮坊）※広報担当/広報委員会
伊藤 奈津子（淑徳大学） ※研究推進担当/研究委員会
熊澤 利和（高崎経済大学）※倫理審査担当/倫理審査委員会
藤谷 章恵（団体会員代表：淑徳大学看護栄養学部）※教育担当/教育・研修委員会
郷堀 ヨゼフ（淑徳大学） ※庶務担当/事務局長
今村 達弥（ささえ愛よろずクリニック）
奥井 一幾（神戸松蔭女子学院大学）
野田 隆生（華頂短期大学）
大河内 大博（願生寺/佛教大学）
吉田 厚子（さっとさんが願生寺 訪問看護ステーション）
中島 小乃美（佛教大学）
大久保 明子（新潟県立看護大学）
小柴 千鶴（さんむ医療センター）
吉水 岳彦（光照院/大正大学）
樺澤 賢正（支援会員代表：龍蔵寺/長岡西病院ビハラー病棟）

監事：森田 敬史（龍谷大学）、佐藤 雅彦（浄心寺/大正大学）

名誉会長：田宮 仁（前 淑徳大学大学総合福祉学部・大学院総合福祉研究科 教授）
藤腹 明子（淑徳大学看護学部 客員教授）

学会設立顧問：大井 玄（東京大学 名誉教授）、鷹司 誓玉（善光寺大本願 法主）
故 水谷 幸正（佛教大学 元学長）

※順序不同

日本仏教看護・ビハラー学会事務局
〒260-8701 千葉県千葉市中央区大巖寺町200
淑徳大学 千葉キャンパス 郷堀研究室内
TEL. 043-265-7331

E-mail: vihara.office@gmail.com <https://www.jabnvs.org/>